(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3610098号

(P3610098)

(45)発行日　平成17年1月12日(2005.1.12)　(24)登録日　平成16年10月22日(2004.10.22)

(51)Int.Cl.[7]	F I	
B65D 65/28	B65D 65/28	
// B65D 83/08	B65D 83/08	A

請求項の数 4　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願平6-239790
(22)出願日　平成6年10月4日(1994.10.4)
(65)公開番号　特開平8-104356
(43)公開日　平成8年4月23日(1996.4.23)
審査請求日　平成13年10月3日(2001.10.3)

(73)特許権者　390029148
大王製紙株式会社
愛媛県四国中央市三島紙屋町２番６０号
(74)代理人　100082647
弁理士　永井　義久
(72)発明者　筒井　丈二
愛媛県伊予三島市紙屋町５番１号　大王製紙株式会社内

審査官　阿部　利英

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ティシュカートンの包装袋

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

同一方向に積み重ねられた複数個のティシュカートンを収容しているティシュカートンの包装袋において、

実質的に前記ティシュカートンの積み重ね方向に沿った２本の裂開用縦ミシン目が前記包装袋の上面部から少なくとも側面部にかけて形成されているとともに、これら２本の裂開用縦ミシン目を繋ぐ１本又は複数本の裂開用横ミシン目が形成され、前記裂開用横ミシン目を裂開したとき前記包装袋に収容されているティシュカートンの取出口が形成されることを特徴とするティシュカートンの包装袋。

【請求項２】

前記裂開用横ミシン目として、少なくとも前記２本の裂開用縦ミシン目の上端同士を繋ぐ１本のミシン目が形成され、かつこの裂開用横ミシン目がアーチ線状またはＶ、逆Ｖ字線状に形成されている請求項２記載のティシュカートンの包装袋。

【請求項３】

前記裂開用縦および横ミシン目が包装袋の稜位置から１０～４０ｍｍずれた位置に形成されている請求項１または２に記載のティシュカートンの包装袋。

【請求項４】

前記裂開用ミシン目が形成された開封部分に対して、摘み用フィルムが取付けられ、かつ、この摘み用フィルムの包装袋側に再接着可能な粘着剤が塗布されている請求項１～３のいずれか１項に記載のティシュカートンの包装袋。

【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、持ち運びが便利となるように複数個のティシュカートンを一纏めに包装する包装袋に係り、特に収容されているティシュカートンを１個づつ容易に取り出すことができるとともに、ティシュカートンを取り出した後の包装袋の体裁を損なうことがないようにしたティシュカートンの包装袋に関する。
【０００２】
【従来の技術】
近年、複数のティシュカートンを一纏めにして、消費者に対して一度に販売することが多くなった。この場合、一般的には、図８に示すように、複数個、たとえば５個のティシュカートンＴ１～Ｔ５を同一方向に積み重ねて、たとえば透明のフィルムからなる包装袋２１によって包装し、持ち運びに便利なように上面２１Ａに把手フィルム２２を形成し販売に供されることが多い。この把手フィルム２２は、包装袋の上面２１Ａを挟んで対向する側面それぞれに、ヒートシール加工２３，２３（裏面側は図示せず）によって取り付けられて、包装袋２１の上面に形成されている。なお、前記積み重ねられた複数個のティシュカートンは、キャラメル包装、若しくはシュリンク包装によって、またはこれらの包装を組み合わせて包装袋により完全に包まれている。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
ところで、従来は、上記のような包装袋からティシュカートンを取り出すための取出口のようなものを設けることはなかった。このため、包装袋からティシュカートンを取り出すには、使用者自らが包装袋の一部、たとえば側面や上面を手で引き裂くか、あるいは刃物等を用いて切り裂き、ティシュカートンを取り出すための取出口を形成する必要があった。
【０００４】
しかし、使用者が包装袋の一部を引き裂いて取出口を形成するとしても、簡単には引き裂き難く、容易にティシュカートンを取り出すことができなかった。しかも引き裂いた部分の体裁が悪くなるなどの問題もあった。通常、使用者は必要なだけのティシュカートンを取り出した後、残りのティシュカートンはこの包装袋に入れたまま保管するが、上記従来の包装袋では引き裂き部分の体裁が悪く残っているため、未使用のティシュカートンを保管しておくのに見栄えの悪いものとなっていた。
【０００５】
ここでキャラメル包装の場合には、上面の貼り合わせ部分を剥がしてティシュカートンを取り出すことも可能であるが、この場合には、ティシュカートンを取り出す際にティシュカートンの角部が包装袋に引っ掛かり取り出し難いとともに、包装袋を切り裂いてしまうことが多く、やはり包装袋の体裁が悪くなる。しかも、把手フィルムが取り付けられている場合には、この把手フィルムを取り外す必要があるため、その後の持ち運びに非常に不便なものとなる。
【０００６】
一方、刃物で切り裂く場合は、刃物を別途用意する必要があるため、手間がかかるとともに、包装袋を切り裂く際、一緒にティシュカートンをも切り付け、ティシュカートンを傷つけてしまうおそれがある。
【０００７】
そこで、本発明の課題は、刃物等を用いることなく、しかも不体裁な引き裂き部分を残すことなく包装袋に収容されているティシュカートンを容易に取り出せるようにしたティシュカートンの包装袋を提供することにある。
【０００８】
【課題を解決するための手段】
上記課題を解決するため、本発明は、同一方向に積み重ねられた複数個のティシュカート

ンを収容しているティシュカートンの包装袋において、
実質的に前記ティシュカートンの積み重ね方向に沿った２本の裂開用縦ミシン目が前記包装袋の上面部から少なくとも側面部にかけて形成されているとともに、これら２本の裂開用縦ミシン目を繋ぐ１本又は複数本の裂開用横ミシン目が形成され、前記裂開用横ミシン目を裂開したとき前記包装袋に収容されているティシュカートンの取出口が形成されることを特徴とするものである。
【００１０】
この場合、前記裂開用横ミシン目として、少なくとも前記２本の裂開用縦ミシン目の上端同士を繋ぐ１本のミシン目が形成され、かつこの裂開用横ミシン目がアーチ線状またはＶ、逆Ｖ字線状に形成されていると、この部分を指で押すなり、後述の摘み用フィルムを前記アーチ線状に膨出した開封片の先端に取付けておき、この摘み用フィルムを捲るように引っ張ることにより簡単に裂開することができる。また、前記裂開用縦および横ミシン目を包装袋の稜位置からずらして形成することにより、運搬時等の使用前におけるミシン目からの破れを防止することができる。また、前記裂開用縦および横ミシン目が包装袋の稜位置から１０～４０ｍｍずれた位置に形成されているのが望ましい。
【００１１】
前記裂開用ミシン目が形成された開封部分に対して、摘み用フィルムが取付けられ、かつ、この摘み用フィルムの包装袋側に再接着可能な粘着剤が塗布されていると、最初の引き裂きが容易となるとともに、ティシュカートンの一部を取り出した後、再び開封片を封鎖することにより埃などが侵入するのを防止した状態でティシュカートンを保管することができる。
【００１２】
【作用】
本発明に係るティシュカートンの包装袋においては、内部に収容されているティシュカートンの取出口を形成するための裂開用ミシン目が形成されている。この裂開用ミシン目は使用者の手によって容易に裂開することができるため、ティシュカートンの取出口を形成して、収容されているティシュカートンを容易に一個づつ取り出すことができる。この場合において、裂開される開封部分はミシン目に沿って綺麗に裂けているため、見栄えのよいものとなっている。
【００１３】
【実施例】
以下、本発明を実施例により、具体的に説明する。
図１は、本発明に係るティシュカートンの包装袋の例を示す斜視図である。ここでは、包装用透明フィルムを通して見える部分を仮想線（一点鎖線）で示している。包装袋１によって５個のティシュカートンＴ１～Ｔ５が包装されており、最上段のティシュカートンＴ１の上面側に、人が持ち運ぶときの把手となる把手フィルム２が設けられている。この把手フィルム２は、包装袋の上面１Ａを挟んで対向する側面１Ｃ，１Ｄのそれぞれに、ヒートシール加工３，３（１Ｄ側は図示せず）によって取り付けられている。また、包装袋１はティシュカートンＴ１の上面側および最下段のティシュカートンＴ５の下面において、対向面１Ｃと１Ｄ、および１Ｅと１Ｆが共に貼り合わされて袋状に成形された、いわゆるキャラメル包装とされている。
【００１４】
本発明では、かかる包装袋１において、その側面１Ｅに取出口を形成するためのミシン目が形成されている。このミシン目は、側面１Ｅの上端辺近傍から下端辺近傍まで延在するように、ティシュカートンＴ１～Ｔ５の積み重ね方向に沿って形成された２本の縦ミシン目１１，１２と、この２本の裂開用縦ミシン目１１，１２（以下、単に縦ミシン目という。）のそれぞれの上端点を繋ぐアーチ状の裂開用横ミシン目１３（以下、単に横ミシン目という。）により構成されており、横ミシン目１３および縦ミシン目１１，１２の一部を裂開すると、図２に示すように、開封片１４が包装袋１本体から剥がれてティシュカートンＴの取出口Ｈが形成される。また、縦ミシン目１１，１２間の横幅は、側面１Ｅから見

たティシュカートンＴの奥行き方向の長さと同程度の幅とされている。この取出口Ｈは、縦および横ミシン目１１，１２，１３に沿って開封片１４を裂開することのみで容易に形成されるため、包装袋１に不体裁な部分を残すことはない。なお、前記横ミシン目１３をＶ字または逆Ｖ字線状に形成することもできる。

【００１５】

ところで、この横ミシン目１３部分の切り裂きを容易にするために、前記アーチ状の横ミシン目１３の下側、すなわち開封片１４の上端部に、ヒートシール加工４Ａによって、摘みフィルム４が取り付けられている。ティシュカートンの取り出しに際しては、この摘みフィルム４を摘んで引っ張れば、前記横ミシン目１３がアーチ状となっていることと相まって、ミシン目１１，１２，１３の裂開を容易に開始することができる。さらには、摘みフィルム４の先端４Ｂにおける包装袋１側には、再接着可能な粘着剤を塗布しておけば、後に示すように、ティシュカートンの一部を取り出した後、再び開封片１４を封鎖することにより埃などが侵入するのを防止した状態でティシュカートンを保管することができる。

【００１６】

他方においては、包装袋１自体が若干伸びを生じるため、ティシュカートンを取り出す際には、図３に示すように、取出口Ｈの面積を若干大きくすることができ、したがって、ティシュカートンを取出口Ｈから容易に取り出すことができるようになる。

【００１７】

そしてティシュカートンＴ１を取り出した後は、たとえば図４に示すように、包装袋１における取り出されたティシュカートンＴ１が収容されていた部分を折り畳み、その上に開封片１４を乗せ、摘みフィルムの先端４Ｂを包装袋の上面１Ａに貼着すれば、包装袋１の体裁を損なうことなく、ティシュカートンＴ２～Ｔ５を保管することができる。しかも、把手フィルム２はティシュカートンＴ１を収容していた時と同様の状態とされているため、把手フィルム２を持って包装袋１を運ぶことも可能である。

【００１８】

その後、続いてティシュカートンＴ２，Ｔ３…を取り出した後も、同様の処置を施すことにより、包装袋１に体裁の悪い引き裂き部分を残すことなく、残りのティシュカートンを保管することができる。

【００１９】

なお、上記の実施例においては、１本の横ミシン目１３のみが形成されているが、たとえば図５に示すように、各ティシュカートンＴ１～Ｔ５が積み重ねられている境界位置に沿って複数本の横ミシン目１３ａ～１３ｅを形成し、ティシュカートンを１個取り出すごとに一枚づつこの横ミシン目１３ａ～１３ｅに沿って開封片１４を切り取っていくこともできる。

【００２０】

他方、縦ミシン目１１，１２は、共に側面部１Ｅに形成されているが、たとえば、側面部１Ｆはもちろん、１Ｃや１Ｄに形成することもできる。さらには、１本を１Ｅに、もう１本を１Ｄまたは１Ｆに形成する等、２つの側面部に１本づつの縦ミシン目を形成してもよく、あるいは、側面と側面との接辺に形成してもよい。さらには、縦ミシン目１１，１２は、側面部１Ｃ，１Ｄ，…にのみ形成されるに止まらず、図６に示すように上面部１Ａ、または下面部１Ｂまで延在して形成することもできる。

【００２１】

また、たとえば、図７に示すように、縦ミシン目１２におけるティシュカートンＴの中央部分に端を発し、開封片１４と反対側の横方向に延在する拡口用ミシン目１５を形成すれば、ティシュカートンＴを取り出す際に、この拡口用ミシン目１５を裂開し取出口Ｈの面積をより大きくすることができ、ティシュカートンＴの取出しがさらに容易となる。

【００２２】

ところで、縦横問わず裂開用ミシン目を多数形成すると、その分衝撃強さが弱まり、たとえばティシュカートンを取り出そうとする前の搬送時等に、裂開用ミシン目が不意に裂開

してしまうということが考えられる。特に、包装袋の稜部（面同士の接合線）に沿ってミシン目を形成した場合には、落下時または運搬時の衝撃が特に包装袋の稜部に集中することから、ミシン目が破け易い。したがって、縦横問わず裂開用ミシン目を形成する位置は、包装袋の稜部をずらした位置とするのが望ましい。本実施例においては、縦ミシン目１１および横ミシン目１３の形成位置は、稜部より１０～４０ｍｍ程度離した位置としている。本発明者等は、図１に示されるミシン目の形成されたティシュカートン包装袋１とミシン目の形成されていないティシュカートン包装袋とを用い、落下状態を変えて、すなわち側面１Ｃ、側面１Ｄ，下面１Ｂまたは角部を下側として落下させるとともに、落下高さを２～４．５ｍとして落下させ、それぞれの包装袋の破れ状態を観察した。その結果、両者に差がないことが確認されている。

【００２３】

以上、本実施例ではキャラメル包装の包装袋について説明したが、本発明はシュリンク包装の包装袋、およびそれら両方を用いた包装袋にも適用できることはいうまでもない。

【００２４】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなとおり、本発明によれば、刃物等を用いることなく、包装袋に収容されているティシュカートンを容易に取り出すことが可能となり、しかも開封部分を不体裁なままで残すことがない。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明に係る包装袋を示す斜視図である。

【図２】裂開用ミシン目を裂開した時のティシュカートンを示す斜視図である。

【図３】ティシュカートンＴ１を取り出している状態を示す斜視図である。

【図４】ティシュカートンＴ１を取り出した後の包装袋を示す斜視図である。

【図５】他の裂開用ミシン目形成例の部分斜視図である。

【図６】他の裂開用ミシン目形成例の部分斜視図である。

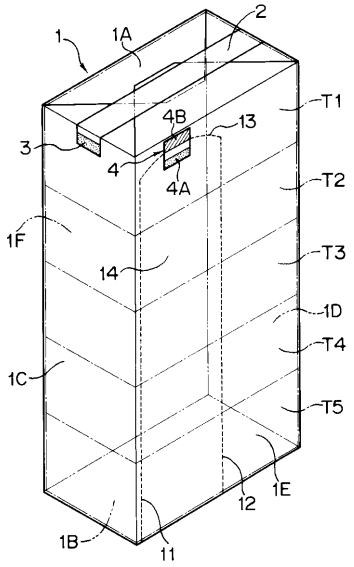
【図７】拡口用ミシン目の形成例を示す部分正面図である。

【図８】従来の包装袋を示す斜視図である。

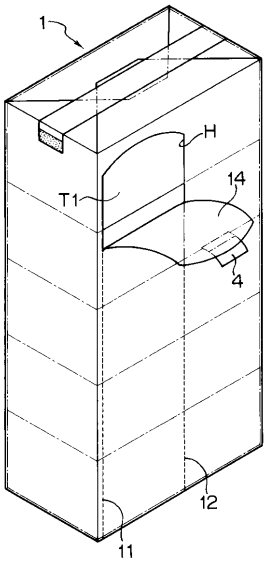
【符号の説明】

１…包装袋、２…把持フィルム、４…摘みフィルム、１１・１２…縦ミシン目、１３・１３ａ～１３ｅ…横ミシン目、１４…開封片、１５…拡口用ミシン目、Ｔ１～Ｔ５…ティシュカートン

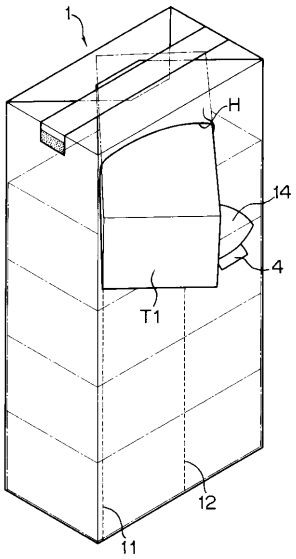
【図１】


1
1A
2
T1
4B
13
3
4
4A
T2
1F
T3
14
1D
T4
1C
T5
1E
12
1B
11

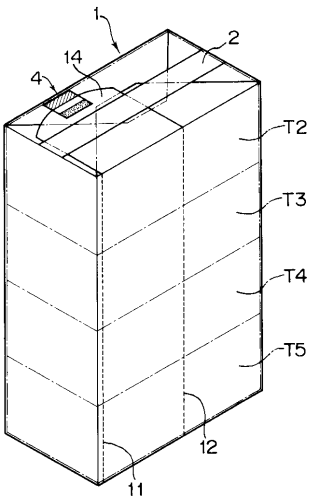
【図２】


1
H
T1
14
4
12
11

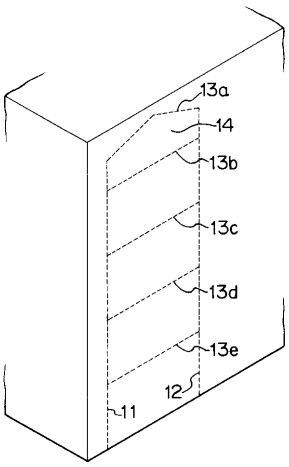
【図３】


1
H
14
4
T1
12
11

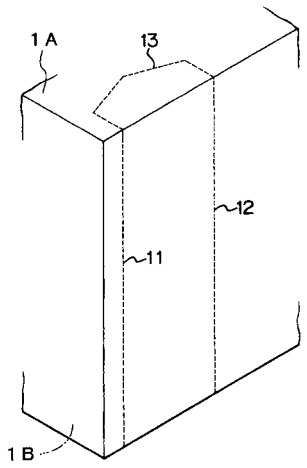
【図４】


1
2
14
4
T2
T3
T4
T5
12
11

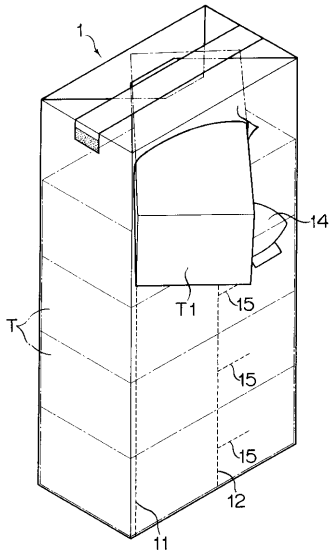
【図５】


13a
14
13b
13c
13d
13e
12
11

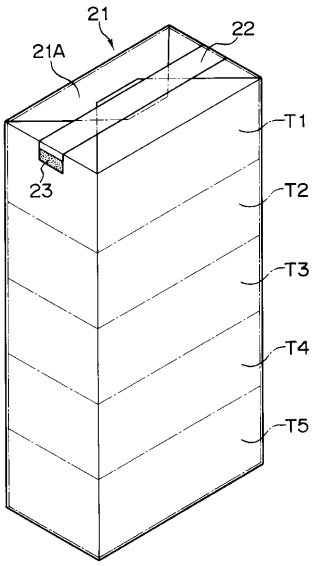
【図６】


1A
13
12
11
1B

【図７】


1
14
T1
15
T
15
15
12
11

【図８】


21
22
21A
T1
23
T2
T3
T4
T5

フロントページの続き

(56)参考文献 実開平０３－０６９６６９（ＪＰ，Ｕ）
実開平０３－１０２４７７（ＪＰ，Ｕ）
実公昭４６－００９８１０（ＪＰ，Ｙ１）
特開昭６０－２２８２６７（ＪＰ，Ａ）
実開昭６０－０８４５７０（ＪＰ，Ｕ）
実開平０３－１０５４８７（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
B65D 65/28
B65D 83/08